

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、  
短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

# 震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2012.2.12-2012.3.11)

## 1 右腕インタビュー



「お金の大切さ」を、1つずつ伝えていく

「コミュニティー財団」として復興と地域発展に取り組んでいる、一般財団法人地域創造基金みやぎ。右腕として参画後に正式雇用され、現在も活動を続けている江川沙織さんに、参画した経緯や今後のことについて伺いました。

—まずは、今の役割について教えてください。

アシスタントプログラムオフィサーをやっています。助成金を出す財団なので、助成金をお渡しするにあたっての申請書の受付であったり、事務局として事務作業をやったり、団体さんを訪問してヒアリングをしたりという部分もやります。今は、漁業支援のプロジェクトを立ち上げるにあたって、南三陸町を行ったり来たりしながら、現地の方のお話を聞いてリサーチしたりもしています。

—「右腕派遣」って、初めて知ったときどういう印象でしたか。

もともと仙台出身なのですが、「東北に若い人を派遣する企画ってすごく嬉しいな」って思いましたね。もともと東北は経済的にも行き詰りはじめていたし、若い人は関東に出て行ってしまいう人も多くて、なかなか良くはならないんじゃないかっていう感じがあって。もし良くなれるとしたら、今回震災があったことをチャンスにする以外はないって思っていました。マッチングフェアに参加して、リーダーの方がみなさん非常に魅力的で東北をなんとかしようっていうところから、この先の日本をなんとかしようっていうところまで、熱意を持っていて。右腕の枠組みがあれば、自分に経験が少なくてもそこに入っていくことが出来るチャンスだなあと感じました

—活動していく中で感じた問題意識などはありますか。

助成する側が知りたい復興のために地域で新しい活動をしていく必要性や思いを、うまく文書に書ききれていない事があるんです。地元の人たちの中には「助成金ってなんですか」という人もいますし、助成金や寄付金が頂けても寄付者に対しての報告の義務をあまり意識していない人もいます。そういう人たちが活動を継続していけるように、お金の大切さや報告の大切さを1つずつ伝えていかなければいけないなと思っています。現場で活動していると、そういうことがわずらわしいとは思いますが、考えるような機会を作っていきたいです。

—具体的には、どういうふうに動かれていくんですか。

気仙地域とか仙台周辺とか、地域ごとに2~3団体でも集まって、教えるというよりも、みんなで考えるきっかけになるようなワークショップ的なことをやりたいと考えています。そういうことをやっていると、震災から1年たって次の3月11日を過ぎたら、寄付で活動資金を集めるの

は更に難しくなってくるし、資金繰りってどんどん厳しくなると思うんですね。そのときにどうやって活動資金を得ていくのか、生み出して行くのかということも、考えていかないといけない。1年が過ぎたあとに、都市部や海外から、地域に落とせるお金を引っ張ってくることは、うちの財団としても必ずやらなきゃいけない事だと思っています。

—まだ東北に来ていない方へ、伝えたいことがあれば教えてください。迷っているんだったら足を運んだ方がいいと思います。右腕として参画するという形でもいいだろうし、週末にボランティアに来るでもいいだろうし、宮城沿岸部で漁を再開しているところもあるので、海産物を食べにきてもいいんじゃないかなと思います。あと、仕事を離れられないし東北に行くこと自体が難しいって人は、1000円でも10000円でも、いろんな活動をしているところに気持ちを寄付するっていうだけでもいいと思うんです。「お金だけ渡して自分は何もしない」ってなんとなく悪い事だと日本人は思いがちですけど、絶対そうじゃない。寄付だけでも地元の助けにはなりますし、そういう関わり方もあると思います。財団でも今、直接寄付の仕組みを構築中で、もうすぐ日本財団の仕組みを利用してfacebookやホームページで公開する予定です。

—いろいろな関わり方ができるって、大切なことですよね。

あと、東京や海外などの企業の方で、会社のCSRで資金が少し出せるなどということがあれば、財団は地域で活動している団体に対してちゃんとお渡しできる存在であるかなと思います。たとえば環境に関して活動している団体に助成をしてほしいとか、オーダーをいただければ、それに基づいた形で助成金のプログラムを考えることもできます。「企業としてここに問題意識を持っている」ということを、助成金のプログラムを通してアピールするきっかけになると思うんですよ。そういうこともっと知ってほしいし、もっとうまく仕組みを使っていたらと思っています。

—ぜひ多くの方が、できる形で支援を続けていってほしいですね。

地域創造基金みやぎ：江川沙織

宮城県仙台市出身。高校まで仙台で過ごし、大学卒業後は関東の某金融機関へ就職。2011年3月に退職し、地元宮城と大好きな東北の為に金融の面から貢献していきたい気持ちを胸に帰郷。地域創造基金みやぎでは、被災地のニーズを発信し、資金面から援助出来る様、また活動がより活性化されるような仕組みづくりに従事。

## 震災から1年、東北3県の47プロジェクトを支援

震災後、3月14日に発足した「震災復興リーダー支援プロジェクト」。あれから1年、多くの起業家精神を持ったリーダーや右腕たちが復興に向けて取り組んできました。これまでに47プロジェクトを支援し、現在は31プロジェクトに右腕を派遣しています。最初は宮城県を中心に展開していた支援先のプロジェクトも、昨年秋から岩手県沿岸部、今春から福島県へと、他地域への展開を推進。また、コミュニティ再生・産業再生・中間支援・医療・福祉・教育とさまざまなテーマのプロジェクトを支援しています。



### ■医療・福祉

仮設住宅を巡回しての高齢者の見守りや健康相談、発達障害など特別なニーズを持つ方々へのサポートなど、地域で暮らす人々の体と心の健康を守る仕事です。

- (2) スペシャル・ニーズを持つ方々の「未来創生」プロジェクト
- (8) 福島県移動保育プロジェクト
- (9) 地域看護・地域福祉 後方支援プロジェクト
- (10) 東日本大震災リハビリネットワーク ～face to face～
- (11) 訪問看護ステーション立ち上げプロジェクト



## ■コミュニティ再生

仕事や家族を失って生きがいを失ってしまった方、震災の被害により仮設住宅で暮らしはじめ、もとの地域コミュニティが分断されてしまった方などに向け、新たな繋がりや生きがい・やりがいの創出はとても大切なものとなっています。



- (1)ぐるぐる応援団
- (3)つなプロ 牡鹿・雄勝
- (4)つなプロ 気仙沼
- (5)つなプロ 石巻
- (6)つなプロ 南三陸
- (7)つなプロ 多賀城
- (12)ドラムカフェジャパン
- (18)MI-K2(Mission Ishinomaki-K2) ~石巻復興支援プロジェクト~
- (20)一般社団法人パーソナルサポートセンター
- (21)仮設住宅・第二のふるさと創出プロジェクト
- (22)大船渡仮設住宅支援員配置支援プロジェクト
- (23)大槌町地域支援員配置プロジェクト
- (24)福島(会津)絆づくり支援センター
- (37)元気になるう福島
- (42)岩手県釜石エリア 雇用マッチング支援プロジェクト
- (43)岩手県釜石エリア 雇用創出プロジェクト
- (47)亘理町グリーンベルト

## ■教育

震災によって、塾や自宅の損壊によって学習環境が悪化したり、経済的に困難な状況に陥った子どもたち。これからの東北を担っていく子どもたちに対して支援を行っていくことが、未来をつくる上で必要とされています。



- (13)[タダゼミ]&[ガチゼミ]
- (14)ほっとスペース
- (15)仮設住宅で生活する子どもたちの教育支援プロジェクト
- (16)放課後学校「コラボ・スクール」女川町
- (17)放課後学校「コラボ・スクール」大槌町
- (35)Sweet Treat 211(雄勝アカデミー)

## ■産業再生

被災者の生活を支えてきた雇用保険の失業手当の給付期間が満了を迎え、雇用の創出が急務となっています。その中で、産業の六次化や現地の情報発信、地域資源の発掘などを行いながら、産業の再生に取り組んでいます。



- (25)陸前高田未来商店街プロジェクト
- (26)バイオマスエネルギー事業立ち上げプロジェクト
- (27)東北Rokuプロジェクト
- (28)多賀城ファームプロジェクト
- (29)ともつなプロジェクト(旧 気仙沼情報発信力アッププロジェクト)
- (30)石巻沿岸地域の未利用資源を活用した産業復興支援プロジェクト(つむぎや)
- (31)地域資源を活かした釜石復興ツーリズムプロジェクト(ほうらいかん)
- (32)東の食の会プロジェクト
- (33)南三陸観光再生プロジェクト
- (34)南三陸復興アトリエプロジェクト
- (36)ひたちなか海浜鉄道再生プロジェクト

## ■中間支援

復興に取り組むNPOや支援団体同士のネットワーキングや外部リソースとの連携、資金調達面での支援など、現地での活動を下支えています。



- (19)一般財団法人MAKOTO
- (38)ORIZURUプロジェクト
- (39)RCF災害支援チーム
- (40)せんだい・みやぎNPOセンター 事務局助っ人
- (41)みやぎ連携復興センター
- (44)地域創造基金みやぎ
- (45)復興応援団
- (46)福島大学災害復興研究所

## 3 今月のトピックス( 2012.2.12-2012.3.11 )

東日本大震災から1年が過ぎました。時が過ぎるにつれ少しずつ震災の記憶が薄れる一方で、今もお、多くの方が復興の現場で躍動しています。東北で立ち上がったモデル性高い事業が他地域で広がり、様々なメディアで取り上げられるなど、新しい社会をかたちづくる萌芽が生まれていることは、次代の大きな可能性を感じさせます。その動きは日本に留まらず海外からも関心を集め、災害からの復興を果たしたアメリカのニューオーリンズからもゲストにお越しいただくなど、世界の知恵を社会事業の先端に移転する動きが起こっています。今年も引き続き、ETIC.では、人材を通じた事業インキュベーションである右腕派遣をコア事業として、外部リソースの巻き込みなど派生事業を展開し、被災地の復興に尽力して参ります。

### ■ Entrepreneur Gathering After 3.11 起業家精神が未来を拓く (2月19日)

#### ■いま、私たちひとりひとりができることは何か

東日本大震災は、私たちの生活、そして社会の在り方に対して、多くの問題提起をもたらしました。東北の沿岸部でいま浮き彫りになっている医療や福祉、教育、過疎、雇用、そして産業再生やコミュニティ再生といった課題は、日本の各地域が抱える課題と重なります。一方で人口減少が続く社会において、公的サービスや社会課題に対して、行政に依存する社会のあり方の限界も、東北の現状を語るまでもなく、既に明らかになっています。

これからの東北の復興、そして日本の再生のために、私たち一人ひとりにできることは何か。今まさに、当事者意識や起業家精神が、問われている時代だと考え、【Entrepreneur Gathering After 3.11 起業家精神が未来を拓く】は開催されました。当日は、企業、行政、大学関係者、NPO等、多様なセクターから304名の方々にお越しいただき、熱のある時間を共に分かち合いました。

#### ■あの日、この国の変革が始まった

冒頭、ソフィアバンク代表の田坂広志氏より基調講演をいただき、震災を機に起きた変革の兆しについてお話しいただきました。そして、ハリケーンカトリーナから復興を果たしたニューオーリンズにて、先進的なまちづくりの取り組みをされていたフロゼル・ダニルス・ジュニア氏より、いかにしてその地域が復興を果たしたか、起業家がどのように未来を拓いていったかを話していただきました。3.11を深くとらえ、如何にして私たちひとりひとりが取り組んでいくことができるか、心の底で考える契機が生まれました。

#### ■復興戦略ダイアログ

数ある分科会のひとつとして、復興戦略ダイアログと題して、現地で復興に取り組む起業家3名と、それを支える支援者2名のダイアログを実施いたしました。震災から現在まで、何が起き、何が変化していったのか、熱のある対話の応酬に、会場一同息を飲みました。震災から1年を経て、単に支援するというだけでなく、行政依存を起こさず、住民のひとりひとりが自立してまちをつくる取り組みに参画していく、それを支えるエコシステムが生まれていく、面としての取り組みが必要とされています。



### ■ ハリケーンカトリーナ後のニューオーリンズ復興に学ぶ (2月20日)

#### ■戦略的な投資による復興を

前日に引き続き、フロゼル・ダニエル・ジュニア氏をお招きし、ニューオーリンズの復興をもとに、企業にいる方々がどのように復興に向き合い、貢献すべきかを考える場を催しました。2005年8月、アメリカのルイジアナ州を中心に猛威を振るったハリケーンカトリーナは1836名の死亡者と、1,500億ドルもの経済損失をもたらしました。ファンデーション・フォー・ルイジアナは、社会的弱者を減らし、持続可能なコミュニティをつくる人々や活動に戦略的に投資を行い、3,000以上の中小企業の再建、住民主導型のコミュニティの再生に貢献しました。当日は、対話のなかで新しい知見が生まれ、想いある方々が集う、活況の会となりました。

#### ■船を造りながら航海しているようだった

災害前のニューオーリンズのまちは保守的でしたが、災害後は多くの若者が集い、リーダーシップを発揮し、行政・企業・NPOと多様なステークホルダーが共にまちづくりを考える機運が生まれました。まるで「船を造りながら航海しているよう」に、何が正しいか分からないなか手探りで前に進んでいくその過程で、新たなチャレンジが生まれ、起業やスモールビジネスをつくろうとする機運が生まれたことが大きな変化だったとの話をいただきました。



## ■ 東北経営者ビジット(3月3日)

### ■災害を機に、社会を変える

3.11の節目を迎えるその間に、6名の企業経営者と共に、宮城県南部の山元町、福島県の南相馬を巡りました。日帰りにも関わらず、密度濃い時間を過ごし、現地で立ち上がっている可能性の萌芽と、いま自分に何ができるかを考える契機が生まれました。

### ■未来ある農業を ～山元町いちご産業の取り組み～

宮城県南部に位置する山元町は、被災前の人口が14,000人、いちごで有名な土地柄でした。もともと200軒あったいちご農家は、震災の影響で一時期5軒まで減りましたが、復興を目指し産業を再生していくなかで単にゼロに戻すのではなく、より発展させていこうという機運が生まれています。当日は、山元町出身の代表者が立ち上げ、企業に勤務している方々がプロボノで支える、NPO法人GRAの取り組みに触れ、智慧を出し合いました。いちごの生鮮感をどうしたらそのままに楽しめるか、加工してどんな商品開発ができるかなど、経営者ならではの視点で、産業の新たな可能性を拓きました。

### ■逆境だからこそ、乗り越えられる

宮城県から南下し、福島県南相馬の地で、まちづくりに取り組む方々と、市役所を巡りました。NPO法人フロンティア南相馬は、福島県のなかで震災後一番早い段階で立ち上がったNPO団体で、直後は物資の搬入・搬出と支援のマッチングを、現在は子供の支援と産業復興支援に取り組んでいます。まちが持続的なものとして生き続けるために、放射能に負けないものを、まさに中心地から発信しようと、昨年夏にゲームジャムを開催。ゲームのプログラマーやグラフィックデザイナー、学生などが集まりゲーム作成のコンテストを実施し、南相馬におけるIT産業の新しい可能性を探っています。その構想に、福岡県飯塚市の事例や、IT企業の事例を交え、今後何ができるべきか、前進のための視座を分かちあいました。その後、市役所で副市長の村田崇氏を訪問。この南相馬の地で、何を切り拓いていくのか、逆境のなかでこそ生まれる変革の可能性について対話を実施しました。



## ■ 右腕ダイアログセッション@気仙沼(3月9-10日)



### ■この地域で見たもの、感じたものは、日本中どこにでもある

ある気仙沼の夜、右腕として地域で事業の立ち上げに取り組む7名の若者が集いました。「あらゆる人が、被災者である」、時日が過ぎゆくなかで、外から新しく入った人にはわかりにくくなっていく事実を想い、互いの今とこれからを話し合いました。時に内省を、時にダイアログを通じて考える時間。講師はつなプロ気仙沼代表の川崎克寛氏。「この地域で見たもの、感じたものは、日本中どこにでもある」と言う彼の視点は、高齢化社会、雇用、福祉、医療などすべての人にとって、いまの東北で起こっている出来事が当事者としての話だと気付かせてくれました。

### ■右腕の役割とは

当日は、各々の事業課題や、今後目指すべきことを話し合うとともに、右腕として地域に入る役割とはいったい何なのか、考えを整理する時間となりました。「右腕という立場をここまで深く考えたことがなかった」、「右腕がつくるネットワークをもっと活かせるのではないか」、「自分と地域と団体がどのような関係性であるか分かった」などと、様々な気づきが得られ、それぞれ決意を新たにしました。

## 4

## プロジェクトの進捗

3月11日現在、右腕へのエントリー者数は累積173名、そのうち74名を右腕として現地へ派遣しました(緊急支援フェーズ20名、リーダー支援フェーズ54名)。これまでの支援プロジェクト数は47であり、現在は31のプロジェクトに右腕を派遣中です。また、4月から福島への右腕派遣を行うべく、福島で5プロジェクトを新たに組成しました。

## 5

## ご支援・ご寄付のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在の寄付の総額150,893,977円のほか、民間企業や国内外の財団から引き続き支援に関する照会をいただいております。

しかしながら、右腕人材の派遣をはじめとして、現地で復興の取り組み人々からの支援のニーズは予想以上に高く、右腕派遣の目標を「50件のプロジェクトに200名」と当初の倍に設定しなおしたのをはじめ、各プロジェクトへのハンズオン支援の充実、新たなプロジェクトのインキュベーションやスタートアップ支援など、震災復興リーダー支援プロジェクトの全体像の再構築に取り組んでいます。

目標の変更に伴い、総予算額も3年間で6億円以上の規模となる予定で、改めてファンドレイジング戦略の強化を実施してまいります。

皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えをはじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

信頼資本財団「震災復興リーダー基金」

≫ <http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/etic/>

### 連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC.内

震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局

(担当:山内・辰巳)

東京都渋谷区神南1-5-7

APPLE OHMIビル4階

mail: [fukkou@etic.or.jp](mailto:fukkou@etic.or.jp)

Web:

<http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>